

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年2月14日
【四半期会計期間】	第113期第3四半期（自平成28年10月1日至平成28年12月31日）
【会社名】	株式会社大林組
【英訳名】	OBAYASHI CORPORATION
【代表者の役職氏名】	取締役社長 白石 達
【本店の所在の場所】	東京都港区港南2丁目15番2号
【電話番号】	03-5769-1017
【事務連絡者氏名】	経理部長 高田 佳明
【最寄りの連絡場所】	東京都港区港南2丁目15番2号
【電話番号】	03-5769-1017
【事務連絡者氏名】	経理部長 高田 佳明
【縦覧に供する場所】	株式会社大林組横浜支店 （横浜市神奈川区鶴屋町2丁目23番地2） 株式会社大林組名古屋支店 （名古屋市東区東桜1丁目10番19号） 株式会社大林組大阪本店 （大阪市北区中之島3丁目6番32号） 株式会社大林組神戸支店 （神戸市中央区加納町4丁目4番17号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神2丁目14番2号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第112期 第3四半期 連結累計期間	第113期 第3四半期 連結累計期間	第112期
会計期間	自 平成27年 4月1日 至 平成27年 12月31日	自 平成28年 4月1日 至 平成28年 12月31日	自 平成27年 4月1日 至 平成28年 3月31日
売上高 (百万円)	1,296,951	1,333,197	1,777,834
経常利益 (百万円)	79,226	102,433	111,208
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	50,667	70,562	63,437
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	35,574	75,240	21,310
純資産額 (百万円)	576,432	620,446	561,658
総資産額 (百万円)	2,034,277	2,017,218	1,951,907
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	70.57	98.31	88.36
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	26.2	28.5	26.4

回次	第112期 第3四半期 連結会計期間	第113期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年 10月1日 至 平成27年 12月31日	自 平成28年 10月1日 至 平成28年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	31.74	40.39

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2 売上高には消費税等は含まれていない。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

#### 2【事業の内容】

当社グループは、当社及び子会社89社、関連会社26社で構成され、その主な事業内容は、建設事業(国内建築事業、海外建築事業、国内土木事業及び海外土木事業)及び不動産事業であり、さらに各々に付帯する事業を行っている。

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはない。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はない。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日～平成28年12月31日）における当社グループの連結業績については、売上高は当社の建設事業売上高が増加したことなどから、前年同四半期比約362億円（2.8%）増の約1兆3,331億円となった。損益の面では、主として当社の国内工事における工事利益率の改善に伴い完成工事総利益が増加したことなどから、営業利益は前年同四半期比約230億円（31.2%）増の約971億円、経常利益は前年同四半期比約232億円（29.3%）増の約1,024億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期比約198億円（39.3%）増の約705億円となった。

#### セグメント情報

（国内建築事業）	売上高は前年同四半期比約673億円（9.9%）増の約7,451億円、営業利益は前年同四半期比約282億円（88.7%）増の約601億円となった。
（海外建築事業）	売上高は前年同四半期比約62億円（2.5%）減の約2,393億円、営業利益は前年同四半期比約23億円（178.6%）増の約36億円となった。
（国内土木事業）	売上高は前年同四半期比約169億円（6.5%）減の約2,419億円、営業利益は前年同四半期比約11億円（4.3%）減の約264億円となった。
（海外土木事業）	売上高は前年同四半期比約30億円（5.5%）増の約576億円、営業損益は約8億円の損失（前年同四半期は約34億円の利益）となった。
（不動産事業）	売上高は前年同四半期比約73億円（21.0%）減の約275億円、営業利益は前年同四半期比約19億円（23.9%）減の約63億円となった。
（その他）	売上高は前年同四半期比約36億円（14.4%）減の約214億円、営業利益は前年同四半期比約0.4億円（3.0%）減の約13億円となった。

セグメント情報の詳細は、第4 経理の状況 を参照

#### (2) 財政状態

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末比約653億円（3.3%）増の約2兆172億円となった。これは、季節要因により「受取手形・完成工事未収入金等」が増加したことや、保有株式の時価の上昇に伴い「投資有価証券」が増加したことなどによるものである。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末比約65億円（0.5%）増の約1兆3,967億円となった。これは、工事代金の支払に係る債務（「支払手形・工事未払金等」及び「電子記録債務」の合計）が減少した一方で、資金需要に対応して「コマーシャル・ペーパー」が増加したことなどによるものである。また、有利子負債残高は前連結会計年度末比約164億円（4.7%）増の約3,627億円となった。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末比約587億円（10.5%）増の約6,204億円となった。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴い「利益剰余金」が増加したことなどによるものである。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は28.5%となり、前連結会計年度末より2.1ポイント上昇した。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はない。

#### (4) 研究開発活動

当社グループの当第3四半期連結累計期間における研究開発に要した費用の総額は、約74億円である。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種 類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,224,335,000
計	1,224,335,000

###### 【発行済株式】

種 類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内 容
普通株式	721,509,646	721,509,646	東京証券取引所 (市場第一部) 福岡証券取引所	権利内容に何ら 限定のない当社 における標準と なる株式であ り、単元株式数 は100株である。
計	721,509,646	721,509,646	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項なし。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年 月 日	発行済株式総数		資 本 金		資本準備金		摘 要
	増減数 (千株)	残 高 (千株)	増減額 (百万円)	残 高 (百万円)	増減額 (百万円)	残 高 (百万円)	
平成28年10月1日～ 平成28年12月31日	-	721,509	-	57,752	-	41,694	-

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしている。

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区 分	株式数（株）	議決権の数（個）	内 容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 3,439,800	-	単元株式数100株
完全議決権株式（その他）	普通株式 717,578,600	7,175,786	単元株式数100株
単元未満株式	普通株式 491,246	-	一単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	721,509,646	-	-
総株主の議決権	-	7,175,786	-

（注） 「完全議決権株式（その他）」には、株主名簿上は当社名義となっているが実質的に所有していない株式1,000株（議決権10個）及び役員報酬B I P信託が所有する株式281,000株（議決権2,810個）が含まれている。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（％）
（自己保有株式） 株式会社大林組	東京都港区港南 2丁目15番2号	3,439,800	-	3,439,800	0.48
計	-	3,439,800	-	3,439,800	0.48

（注） 株主名簿上は当社名義となっているが実質的に所有していない株式1,000株（議決権10個）及び役員報酬B I P信託が所有する株式281,000株（議決権2,810個）は、上記自己保有株式には含まれていない。

2 【役員の状況】

該当事項なし。

## 第4【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載している。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けている。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	164,829	158,539
受取手形・完成工事未収入金等	715,023	2,734,557
電子記録債権	8,866	2,21,984
有価証券	2,606	2,376
販売用不動産	17,151	15,643
未成工事支出金	37,758	50,830
不動産事業支出金	24,448	26,438
PFI等たな卸資産	45,514	42,195
その他のたな卸資産	6,266	10,205
繰延税金資産	17,599	13,657
未収入金	71,059	62,247
その他	17,800	35,406
貸倒引当金	157	136
流動資産合計	1,128,768	1,173,948
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	92,265	91,635
機械、運搬具及び工具器具備品(純額)	30,985	28,692
土地	305,588	308,534
リース資産(純額)	225	239
建設仮勘定	12,539	25,516
有形固定資産合計	441,604	454,618
無形固定資産	6,404	6,463
投資その他の資産		
投資有価証券	342,021	356,959
長期貸付金	2,170	2,070
退職給付に係る資産	68	30
繰延税金資産	2,029	2,019
その他	29,107	21,357
貸倒引当金	266	250
投資その他の資産合計	375,130	382,187
固定資産合計	823,139	843,269
繰延資産	0	-
資産合計	1,951,907	2,017,218

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形・工事未払金等	486,533	2 463,503
電子記録債務	122,697	2 129,970
短期借入金	150,465	123,510
1年内返済予定のノンリコース借入金	3 6,858	3 6,800
コマーシャル・ペーパー	-	56,000
1年内償還予定の社債	10,000	25,000
リース債務	78	87
未払法人税等	17,856	15,746
繰延税金負債	514	417
未成工事受入金	122,802	113,641
預り金	76,454	97,320
完成工事補償引当金	2,491	2,571
工事損失引当金	12,808	8,090
その他	63,639	57,109
<b>流動負債合計</b>	<b>1,073,200</b>	<b>1,099,769</b>
<b>固定負債</b>		
社債	55,000	30,000
長期借入金	51,000	53,824
ノンリコース借入金	3 73,015	3 67,639
リース債務	131	139
繰延税金負債	41,830	49,718
再評価に係る繰延税金負債	21,313	21,240
役員株式給付引当金	209	194
不動産事業等損失引当金	993	993
環境対策引当金	882	834
退職給付に係る負債	52,126	52,816
その他	20,546	19,600
<b>固定負債合計</b>	<b>317,049</b>	<b>297,002</b>
<b>負債合計</b>	<b>1,390,249</b>	<b>1,396,771</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	57,752	57,752
資本剰余金	41,752	41,752
利益剰余金	255,750	310,678
自己株式	1,958	1,962
<b>株主資本合計</b>	<b>353,297</b>	<b>408,220</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	140,328	147,815
繰延ヘッジ損益	47	19
土地再評価差額金	20,937	20,774
為替換算調整勘定	822	3,816
退職給付に係る調整累計額	760	1,065
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>162,801</b>	<b>165,858</b>
非支配株主持分	45,559	46,368
<b>純資産合計</b>	<b>561,658</b>	<b>620,446</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>1,951,907</b>	<b>2,017,218</b>



## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
<b>売上高</b>		
完成工事高	1,237,009	1,284,196
不動産事業等売上高	59,941	49,000
売上高合計	1,296,951	1,333,197
<b>売上原価</b>		
完成工事原価	1,116,076	1,136,153
不動産事業等売上原価	43,341	34,247
売上原価合計	1,159,417	1,170,401
<b>売上総利益</b>		
完成工事総利益	120,932	148,043
不動産事業等総利益	16,600	14,752
売上総利益合計	137,533	162,796
販売費及び一般管理費	63,482	65,663
営業利益	74,050	97,132
<b>営業外収益</b>		
受取利息	1,794	1,410
受取配当金	5,636	5,636
その他	641	604
営業外収益合計	8,073	7,652
<b>営業外費用</b>		
支払利息	2,030	1,840
為替差損	702	298
その他	164	211
営業外費用合計	2,897	2,350
<b>経常利益</b>	79,226	102,433
<b>特別利益</b>		
投資有価証券売却益	2,653	3,037
固定資産売却益	592	461
その他	32	165
特別利益合計	3,278	3,664
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	328	150
その他	736	84
特別損失合計	1,064	235
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	81,441	105,862
法人税、住民税及び事業税	10,245	22,785
法人税等調整額	15,825	8,363
法人税等合計	26,070	31,148
<b>四半期純利益</b>	55,370	74,713
非支配株主に帰属する四半期純利益	4,702	4,151
親会社株主に帰属する四半期純利益	50,667	70,562

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	55,370	74,713
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15,420	7,518
繰延ヘッジ損益	88	67
為替換算調整勘定	4,118	7,313
退職給付に係る調整額	177	265
持分法適用会社に対する持分相当額	7	11
その他の包括利益合計	19,795	526
四半期包括利益	35,574	75,240
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	32,738	73,782
非支配株主に係る四半期包括利益	2,836	1,458

【注記事項】

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間から適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更している。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微である。

(追加情報)

(取締役及び執行役員に対する業績連動型株式報酬制度)

1 取引の概要

当社は、取締役及び執行役員(社外取締役及び海外居住者を除く。以下「取締役等」という。)へのインセンティブプランとして、平成27年度から業績連動型株式報酬制度(以下「本制度」という。)を導入している。本制度は当社の中長期的な業績の向上と企業価値の増大への貢献意識を高めることを目的とした、会社業績との連動性が高く、かつ透明性及び客観性の高い報酬制度である。

具体的には、役員報酬BIP(Board Incentive Plan)信託と称される仕組みを採用し、あらかじめ役員報酬BIP信託により取得した当社株式を各連結会計年度の業績目標の達成度等に応じて当社取締役等に交付する。

2 信託に残存する当社株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上している。当第3四半期連結会計期間末における当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、294百万円及び281,000株である。

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用している。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

下記の会社等の借入金について保証を行っている。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
従業員住宅購入借入金	184百万円	従業員住宅購入借入金	137百万円
その他	46	その他	19
計	231	計	157

上記金額は他社分担保保証額を除いた当社及び連結子会社の保証債務額を記載している。

2 四半期連結会計期間末日の満期手形等の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって決済処理している。

当第3四半期連結会計期間の末日は金融機関の休日であったため、次の満期手形等が当第3四半期連結会計期間末日の残高に含まれている。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
受取手形	- 百万円	515百万円
電子記録債権	-	14
支払手形	-	2,597
電子記録債務	-	11,920

3 「1年内返済予定のノンリコース借入金」及び「ノンリコース借入金」は、連結子会社でPFI事業、不動産事業又は再生可能エネルギー事業における特別目的会社が、当該PFI事業、不動産事業又は再生可能エネルギー事業を担保とするノンリコースローンとして金融機関等から調達した借入金である。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)並びにのれん及び負ののれんの償却額は、次のとおりである。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
減価償却費	10,735百万円	10,891百万円
のれんの償却額	610	149
負ののれんの償却額	2	-

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	4,308	6	平成27年 3月31日	平成27年 6月29日	利益剰余金
平成27年11月10日 取締役会	普通株式	3,590	5	平成27年 9月30日	平成27年 12月2日	利益剰余金

(注) 平成27年11月10日開催の取締役会決議による配当金の総額には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式に対する配当金1百万円が含まれている。

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの  
該当事項なし。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	9,334	13	平成28年 3月31日	平成28年 6月30日	利益剰余金
平成28年11月8日 取締役会	普通株式	6,462	9	平成28年 9月30日	平成28年 12月2日	利益剰余金

(注) 1 平成28年6月29日開催の定時株主総会決議による配当金の総額には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式に対する配当金3百万円が含まれている。

2 平成28年11月8日開催の取締役会決議による配当金の総額には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれている。

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの  
該当事項なし。

(セグメント情報)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計
	国内 建築	海外 建築	国内 土木	海外 土木	不動産	計		
売上高								
外部顧客への売上高	677,871	245,554	258,903	54,679	34,884	1,271,894	25,056	1,296,951
セグメント間の 内部売上高又は振替高	24,103	28	14,750	-	855	39,738	5,516	45,254
セグメント売上高	701,974	245,583	273,654	54,679	35,740	1,311,632	30,573	1,342,205
営業利益								
外部顧客売上高に対応する 営業利益(注2)	31,878	1,311	27,648	3,432	8,373	72,645	1,405	74,050
セグメント間の 内部営業利益又は振替高	21	18	17	1	0	16	67	84
セグメント利益	31,900	1,293	27,631	3,430	8,373	72,628	1,337	73,966

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、PFI事業、再生可能エネルギー事業、金融事業及びゴルフ場事業等を含んでいる。

2 「外部顧客売上高に対応する営業利益」は、「セグメント利益」から「セグメント間の内部営業利益又は振替高」を控除した金額であり、「外部顧客売上高に対応する営業利益」の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致している。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計
	国内 建築	海外 建築	国内 土木	海外 土木	不動産	計		
売上高								
外部顧客への売上高	745,172	239,334	241,998	57,692	27,563	1,311,760	21,436	1,333,197
セグメント間の 内部売上高又は振替高	27,890	29	15,301	-	852	44,074	5,537	49,611
セグメント売上高	773,062	239,363	257,299	57,692	28,416	1,355,834	26,974	1,382,808
営業利益又は営業損失								
外部顧客売上高に対応する 営業利益又は営業損失( ) (注2)	60,147	3,655	26,464	872	6,374	95,768	1,363	97,132
セグメント間の 内部営業利益又は振替高	535	17	740	2	0	1,255	64	1,191
セグメント利益又は損失( )	60,683	3,637	27,205	875	6,373	97,024	1,299	98,324

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、PFI事業、再生可能エネルギー事業、金融事業及びゴルフ場事業等を含んでいる。

2 「外部顧客売上高に対応する営業利益又は営業損失」は、「セグメント利益又は損失」から「セグメント間の内部営業利益又は振替高」を控除した金額であり、「外部顧客売上高に対応する営業利益又は営業損失」の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致している。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利 益	前第3四半期連結累計期間 （自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日）
報告セグメント計	72,628	97,024
「その他」の区分の利益	1,337	1,299
セグメント間取引消去	84	1,191
四半期連結損益計算書の営業利益	74,050	97,132

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日）
1株当たり四半期純利益金額	70円57銭	98円31銭
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 （百万円）	50,667	70,562
普通株主に帰属しない金額 （百万円）	-	-
普通株式に係る親会社株主に 帰属する四半期純利益金額 （百万円）	50,667	70,562
普通株式の期中平均株式数 （千株）	717,965	717,789

- （注）1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。  
2 役員報酬BIP信託が所有する当社株式を、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めている。当該自己株式の期中平均株式数は前第3四半期連結累計期間3,544千株、当第3四半期連結累計期間3,720千株であり、このうち役員報酬BIP信託が所有する当社株式の期中平均株式数は前第3四半期連結累計期間140千株、当第3四半期連結累計期間281千株である。

（重要な後発事象）

該当事項なし。

2【その他】

中間配当に関する取締役会の決議

- |                     |                |
|---------------------|----------------|
| 1 決議年月日             | 平成28年11月8日     |
| 2 中間配当金の総額          | 6,462,628,497円 |
| 3 1株当たりの額           | 9円             |
| 4 支払請求の効力発生日及び支払開始日 | 平成28年12月2日     |

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年2月14日

株式会社 大林組

取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 長 坂 隆

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 諏 訪 部 修

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐 藤 賢 治

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社大林組の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社大林組及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。

2 XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていない。